

## 【背景】

- 東日本大震災の身元確認において、身元不明遺体の歯科所見と生前歯科診療情報の照合による身元確認の有効性が改めて示された。他方で、①津波による歯科医療機関の被災により歯科診療情報の収集に困難をきたした。  
②歯科診療情報の統一化が図られておらず、人海戦術によるデータの再入力等の必要が生じた。
- これらの経緯から歯科診療情報の①**保存方法**を検討すること、および②**標準化**を図ること目的として平成25年度より本事業が開始された。

## モデル事業

## 全国へ展開

### H25年度

当初予算額：21,035千円

#### 【目的】

レセプトデータを用いた口腔内情報（仮想生前）と実際の口腔内（仮想死後）を比較し、その整合性を検討すること

#### 【結果】

口腔内歯牙情報を26種類（健全歯・欠損など）に分類し、生前と死後のデータを照合した結果、検索リストの上位1%を調べれば、約65.7%の人が見つかることが明らかとなった。**身元スクリーニング**に使用可能。

### H26年度

当初予算額：11,465千円

#### 【目的】

レセプトデータ様式を統一し、歯科診療情報の標準化を図ること

#### 【結果】

**簡易型データセット**（52種類）を用い、前年度と同様の検証を行い、同等の結果を得た。しかし、すべての歯科診療情報の標準化・バックアップの観点からの標準データセットの細分化の必要性や、データ保存方法など検討すべき事項が明らかとなった。

### H27年度

当初予算額：11,638千円

#### 【目的】

歯科診療情報の標準化を担う標準データセットを策定すること（ISOやANSI/ADAと同等）

#### 【結果】

平成26年度の結果を踏まえ、**標準データセット（下図・おおむね全ての歯科診療情報を含む）の策定**を行った。バックアップの方法、標準データセットの利活用、標準データセットのレセコンへの搭載方法などが課題として挙げられた。

### H28年度

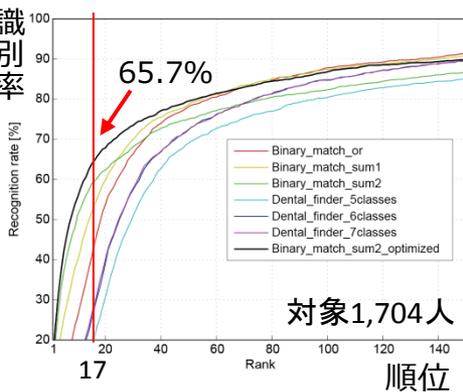
当初予算額：10,799千円

#### 【目的】

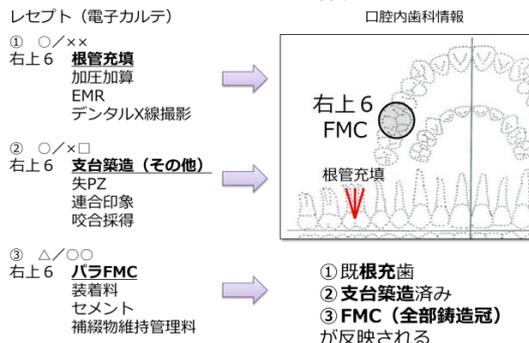
- ①標準データセットを元にレセコンプログラムのデータ交換規約（仕様書）の策定を行うこと
- ②ベンダー各社にデータ交換規約を周知し、それをもとにレセコン用プログラムの開発推奨を図ること
- ③標準化されたレセプトデータの保存方法を提示すること

↓  
**モデル事業を全国展開**  
**歯科情報の利活用**を幅広く検討する

## Cumulative Match Characteristic 曲線

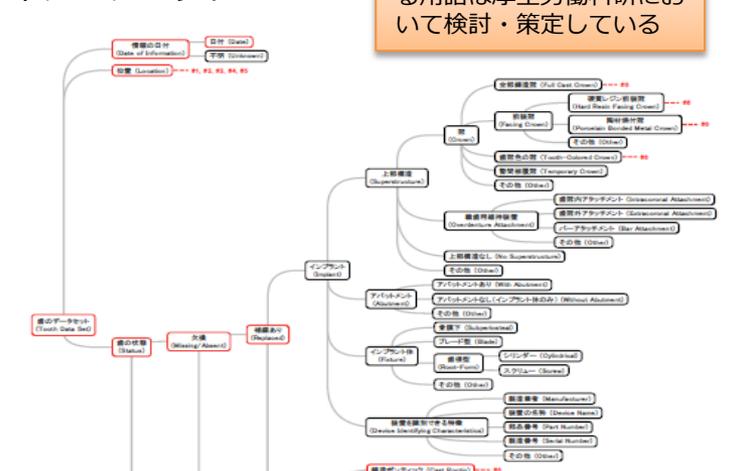


## レセプトデータの保存



- ・レセプトデータ  
レセコン内部に蓄積されているデータ（本事業で使用）
- ・レセプト電算データ  
診療報酬請求に使用するデータ。診療行為の部位情報が含まれていない（請求項目と病名・歯の部位）

## 標準データセット



標準データセットで使用する用語は厚生労働科研において検討・策定している